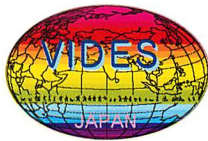
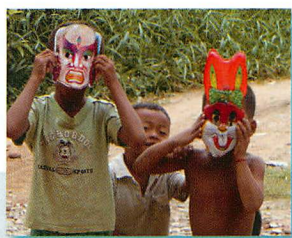


VIDES news vol.32



Volontariato ボランティア
Internazionale 国際的な
Donna 女性の
Educazione 教育
Sviluppo 開発

VIDES News 第32号 2011年9月発行 VIDESH本管区 事務局



私たちに今、できること…



神様はいつもそばにいてくださる



VIDES JAPAN顧問 Sr.稲川孝子

2011年3月11日、この日を境にして、多くの日本人家族は愛する人、故郷、仕事を失いました。大地震によって家が崩壊し、大津波によって愛する人を失い、家屋が流され、原発の被害により、故郷に戻れない人達が二重苦、三重苦の中で避難生活を強いられております。

私は6月末に福島県、宮城県、岩手県の三県を訪問致しまして、福島県民の三重苦の重い十字架をひときわ強く感じた次第です。国際ボランティア組織であるVIDES JAPANの「被災地支援」の在り方についても、被災地の現状や必要性をよく把握した上で、真剣に考えていくことが大切であると改めて考えさせられました。共にこの三重苦の十字架を担い、復活の希望の彼方へ眼差しを向けながら、前進してまいりたいと強い願望と祈りを以て訪問を終えました。

大地震の恐ろしさを体験した7歳の日本人の少女が、教皇ベネディクト16世に質問をしました。「私と同じ年齢の子供たちが、被災地でたくさん亡くなりました。どうしてこんな悲しいことにならなければならないのですか。教皇様!教えてください」と。

教皇ベネディクト16世は少女に向かってお答えになりました。「私もあなたと同じように問いかけています。どうしてこのようなことが起きるのでしょうか。他の人々は快適に暮らしているのに、どうしてこれほど苦しまなければならないのでしょうか。私には答えることはできません。けれども、私は知っています。イエス様は罪がないにも関わらず、私達と同じように苦しめられました。イエス様のうちにご自身を現わして下さったまことの神様は、皆様のそばにいてくださいます。たとえ答えが見つからず、私達が今なお悲しみのうちにあっても、神様が皆様のそばにいてくださいます。」(教皇ベネディクト16世インタビューより抜粋)

「神様はいつもそばにいてくださる」この言葉を信じ、希望を持ち、この厳しい現実の中で、困難、苦しみから復活へと、毎日の生活を一步、一步、歩みながら、乗り越えてまいりましょう!!!

実活動は『祈り』、 そして『思い』は『人間愛』



VIDES JAPAN事務局長 中川摩夜

錦秋の候には少し早い時期、暑い暑い夏を乗り切り、皆様いかがおすごしでしょうか?

3月に発生した日本の大惨事では「特別災害援助プロジェクト」を活動に加え、メンバーの皆様には活発なVIDES JAPAN活動継続と共に様々な支援をいただき、紙面を拝借し心より感謝・御礼申し上げます。

また全国の『相手を思う』ボランティアが自分の意思で様々な支援活動を展開し、彼等の姿は闇の中の光でした。他者が大変な時に、自分の力で出来る限りの御手伝いをする。自分の意思で他者・相手を思って行動を起こし、活動し、相手の笑顔にのみ喜びを感じる時、そこには真のボランティア精神が存在します。

私達VIDES JAPANは様々な活動を通して『真の人間教育 人間性』を重視し実践して参りました。発足より18年目に手が届こうとする今、組織が大きくなればなるほど、その中での『わたくしの考え、わたくしの指針』をメンバーひとりひとりが、しっかり持つ事の重要性を再確認しております。ひとつのボランティア組織の中で、私の役割を考え、神から賜った才能を使い、私のためでなく他者のために活動をするとき、結果、組織も私も成長していきます。つまり自分のリスク無しには、他者や組織の育成は不可能といっても過言ではありません。頭だけでもの申すのでなく、現実の活動を通して得た・見た・知ったことには真実があります。そして実活動は『祈り』であることに気付くはずです。『思い』は『人間愛』であるからです。

小さな活動、大きなプロジェクト、VIDES JAPANは様々なボランティア活動を遂行中ですが、この『思い』を大切にしてください。これからも一緒に考え、一緒に行動して参りましょう。

支部便り

大阪 VIDES OSAKA

VIDES大阪顧問 Sr. 古川 千恵子

今年は何と言っても日本にとっては大きな試練の時でした。日本は今、地震・津波・原発事故というかつてない苦しみのうちにあります。国内だけでなく全世界からの温かい援助に支えられながらも、大震災から早6ヶ月がたちましたが、復興はなかなかはかどらないようです。今もなお、多くの方々が不自由な生活を余儀なくされています。

VIDES大阪でも、大震災後、いち早くボランティアとして現地に赴くことはままならず、何かのお役にたてただけだと義援金をお送りしまし

た。復興の道のりは長く、まだまだ援助が必要だと思っておりますので、祈りと共に何らかの対策を考えております。

10月22日(土)には大阪VIDES集会を開き、東日本大震災支援を念頭に、VIDESの意義、活動、今後の支部のあり方などについてざっくばらんな話し合いの時を持ちたいと思っております。また、例年行われます11月3日の城星フェスタには、同窓生VIDESの活躍も大いに期待されています。

静岡 VIDES SHIZUOKA

VIDES静岡 谷口 聡美

23年度は、静岡サレジオ高等学校の学園祭「サレジオ祭」バザーでのリサイクル店に、膨大な協力を学園内から回収することができ、VIDESの活動に対する周囲の理解が上がってきたのを感じています。手作り小物を準備して下さる「ベルの会」の方とご一緒に売り上げを伸ばすことができました。これは同じ学園に所属する幼稚園・小学校の催し物「両親感謝の集い」の際に募った募金とともに、フィリピン・ネグロス島の青少年たちへの就学資金として活用します。8月にはそのお金を直接届けるために、VIDES静岡ジュニアを含む静岡サレジオ高校の生



徒たちがネグロス島を訪問します。



また中高生が活動するVIDESジュニアでは、この文化祭でVIDESメンバーによる展示「フェアトレードって何？」とジュニアメンバーの呼びかけに応えた有志による特別展示「ペットの行方を知っていますか？」を行い、動物愛護法の改正を求める署名活動を展開しました。こちらの活動はソロプチミスト中央静岡の9月例会で活動報告と講演を依頼されるほどの充実の内容でした。

10月には2回目となる「VIDES Academic Act」も開催予定です。

世界のVIDES

VIDESは1980年代後半にイタリア、フランス、イギリスのサレジアンシスターズで始まったボランティア活動が、1991年に国際組織として統合され、世界中に広がっています。

-  VIDES Italy (イタリア)
-  VIDES United_Kingdom (イギリス)
-  VIDES Ireland (アイルランド)
-  VIDES Vlaanderen (ベルギー)
-  VIDES France (フランス)
-  VIDES Spain (スペイン)
-  VIDES Poland (ポーランド)
-  VIDES Portugal (ポルトガル)

-  VIDES Czech_Republic (チェコ)
-  VIDES Germany (ドイツ)

-  VIDES Slovakia (スロバキア)
-  VIDES Austria (オーストリア)



-  VIDES China (中国)
-  VIDES Japan (日本)
-  VIDES Korea (韓国)
-  VIDES Thailand (タイ)
-  VIDES India (インド)
-  VIDES Cambodia (カンボジア)
-  VIDES Vietnam (ベトナム)
-  VIDES Philippines (フィリピン)

-  VIDES CANADA (カナダ)
-  VIDES USA (アメリカ合衆国)
-  VIDES Mexico (メキシコ)
-  VIDES Costa_Rica (コスタリカ)
-  VIDES Honduras (ホンジュラス)
-  VIDES Nicaragua (ニカラグア)
-  VIDES Panama (パナマ)
-  VIDES El_Salvador (エルサルバドル)
-  VIDES Guatemalar (グアテマラ)
-  VIDES Brazil (ブラジル)
-  VIDES Chile (チリ)
-  VIDES Argentine (アルゼンチン)

VIDES INTERNATIONAL

本部はローマにあり、隔年ごとに国際大会が開催され、世界中から集まったVIDES会員が活動報告をし、いま世界が抱えている問題をどのように解決していったらよいか議論し、互いの交流を深めます。海外ボランティアで各国のVIDESグループと出会いますが、私たち会員はすぐに意気投合して共に活動することができます。なぜなら所属している国は異なっても、同じVIDESの精神で歩んでいるからです。現在、39か国にそれぞれの国のVIDES管区がおかれていて、いくつもの支部に分かれて、一人一人が喜びのうちに活動しています。VIDES INTERNATIONALのWebサイトは、<http://www.vides.org>です。

カンボジアと日本の若者交流コンサート

日時:2011年3月11日 場所:文化芸術省ホール(カンボジア王国首都プノンペン)

2010年夏の運命的な出会いのエピソードを聞き、その冬に、世界的に活躍するマリンバスト大熊理津子さんは稲川シスターとともにカンボジアに飛び、カンボジア王国芸術省副大臣のオウ・ソチェクさん(ピロンさんの叔父)や芸術大学の教授陣と会合を持った。そしてコンサート実現に向けて、出演者・曲目・演奏順・会場の検討などカンボジアと日本の調整役として奔走して下さった。しかし、肝心の「マリンバ」という楽器がここカンボジアにはない。こうして、日本から「マリンバ」を携えての演奏旅行が始まることとなる。



កម្ពុជា : ព្រះរាជាណាចក្រកម្ពុជា
“សុវត្ថិភាព និងស្តុករាព សុខដុមរាព វឌ្ឍនភាព”



3月8日早朝、解体したマリンバのケース6個と支援物資が入ったダンボールが3つ、プノンペンへ移動する第1陣は全部で7人。全員出国手続きを滞りなく済ませ、出発ロビーでしばしつろいだあと飛行機に乗り込む。ほぼ定刻に出発。乗り継ぎのタイ空港でゲートを間違え3キロ強のマラソンをし、疲労困憊でプノンペンへ到着。箱がこわれることなく無事に到着したマリンバ一式を、何台ものカートに載せて税関を通過する。事前にスタンバイして下さった職員の方たちのおかげでスムーズに入国OKとなり、外へ出ることができた。

外で待機していた懐かしいみんなと再会を喜び、2台の大型車に、マリンバと手荷物を分散して積み込む。ホテルへ向かってチェックイン。

翌9日午後、ホールに楽器と共に向かい、早速リハーサルに向けてマリンバを組み立てる。無事!安心!学生達も大変元気。湿気が高く、鍵盤がどンドン鳴らなくなりましたので、リハーサル後、鍵盤だけホテルに持ち帰り、エアコンのつくお部屋へ。夜は焼肉としゃぶしゃぶが一緒になった美味しいお鍋をいただき、ビールを一杯。

次の日の朝には東京からの第2陣とカンボジアの演奏者達が加わり、リハーサルが進められる。音響さんは気付くところか消えているし、照明のセッティングをすると一部停電になってしまうし、それでもカンボジアの人たちは、大変にのんびり。言葉の問題もあり、なかなか進まず、少し困ってしまった。自分

の練習ができなかったので、みんなを帰した後、3時間ほど練習。観光していた学生達と合流、夕ご飯。

ついに11日になり、前日(勝手に)舞台の椅子などをセッティングした状態を確認し、ステージリハーサルが始まった。ステージマナーや進行、いちいち口を出しながら進めて(後で、カンボジアの学生は日本の学生に「あのマリンバの人はトラみたいだ。」と言っていたらしい。とほほ・・・)、そして午後はいよいよ本番である。開演直前に日本の大地震のニュースが飛び込んできたが、今はここで演奏することが私の使命だと自分に言い聞かせ、周りにも動揺を与えないように笑顔で過ごす。

カンボジアメンバーによるオーケストラでオープニング演奏から始まり、日本メンバーのバイオリンと合唱は演奏後熱狂的な拍手と歓声を送られていた。合同演奏も成功し、そしてはるばる空を飛んできたマリンバが響き渡った。王立文化芸術省副大臣や高官の皆様、日本大使館関係者の皆様、プノンペンのサレジアンの方、その他のお客様もみえて、マリンバの話などをピロンさんの通訳で交えて、和やかな演奏会を実施することができた。

翌日マリンバを寄贈するために芸術学校の先生方に解体や組立て、諸注意などを説明し、楽器は引き渡された。ピアニストの弘子さんとノイさんと、すこしプノンペンをブラブラし、モニさんのお宅でシャワーを浴びさせていただき(感謝!)空港へ。予定通り飛行機は飛んだものの、乗り継ぎのタイでは、成田行きが飛ばない。震災の悪いニュースはどンドン入る。



武内良太朗さん

不安の徹夜。明朝ようやく出発し、成田到着となり旅を終えた。

今回痛感したことは、カンボジアのクラシック音楽はまだ国際レベルに達していないということ。(民族音楽や伝統芸能は大変に素晴らしい!) 悲しい歴史を鑑みれば仕方ないけれど。そして、コンサートを開催するために何が必要か、というノウハウも知らない。会場準備や設営、広報含め。しかし、若者から大人まで、様々な刺激や情報に対して大変敏感で貪欲だった。これは嬉しい発見。

課題としては、まず、本物に触れる機会を少しでも多くすること。そして若い人た



ちに向学心や向上心を定着させ、音楽的技術の指導していくこと(指導できる人間もないのでそこも難しいのだが)。更に、公演を開催するにはスタッフを徹底して配備し、また広報活動をきちんとすること。

このコンサートで、多くの出会いと、喜びの分かち合いがあり、様々な輪が広がり、支えてくださった全ての人に感謝したい。そして、カンボジアのお客様、出演者、先生方にとって、小さくてもよいので、音楽的発展のきっかけになっていたらと切に願う。

大熊理津子

共に喜び、共に成長した10日間

鈴木彩織

カンボジアで過ごした1日1日が、私にとって感動体験でした。共演コンサートでは、音楽を奏でる喜びを若者たちと共有できました。曲は合唱曲や日本の童謡などです。貴重な舞台上に立たせていただき、嬉しく思いました。

ポー村小学校ではボランティアで美術と音楽の授業をしました。私たちの緊張を解いてくれるのは子どもたちのキラキラした笑顔でした。私たちとの交流が子どもたちの心の中に良い刺激となって残り、将来彼らにとってのプラスになってほしいと思います。

松井美都子

この研修は私自身に大きく影響を与えるものでした。プノンペン王立芸術大学のオーケストラとの共演コンサートでは、西洋音楽がまだまだ浸透してはいないものの、私たちの合唱との合奏では共鳴しあい言葉ではないなかで通じ合うことが出来ました。しかし、カンボジアで音楽大学に通えるのは生活が豊かな限られた人だけ。その年齢の自分を考えてみると、全く信じられない現実です。現地で現実を肌で感じることで今までとは違った見方ができるようになりました。

松井彰子

現地の王立芸術大学の学生との合同コンサート、そして子供達に美術や音楽を教えるという目的でした。コンサートでは、初対面ながら共に音楽を通じて心を通わせることで、まさに音楽が国境を越えた瞬間を体験することが出来ました! カンボジアにおける様々な環境に生きる人たちとの出会いに、私の感性や人生観は大きく揺さぶられた気がします。いま、私に何が出来るだろう? そんなことを考えながら、是非次のツアーにも参加させて頂きたいです。

三科愛里

今回のツアーを通してお金や物資を与えることだけがボランティア、福祉ではないということが分かりました。このツアーで人間性を成長させることが未来につながる幸福なのだと思います。現地の人たちと一緒に音楽会を開き、共にコーラスをしたり、ポー村の小学校で音楽や図工を教えました。交流の際の彼らのまっすぐな瞳は忘れられません。カンボジアの治安は良くなったといいますが、まだまだです。物を盗まない、うそをつかない、他人を思いやるなどの教育も

目に見えない支援として必要だと思いました。

このツアーに参加したことを活かし、今後の福祉活動に役立てていきたいと思いました。

廣岡涼子

今回のカンボジアではBBSやポー村小学校でのボランティアだけでなくプノンペンでカンボジアの学生と一緒にコンサートをを行いました。言語は違うけど音楽という一つのものを通して繋がれたことはお互いに刺激的でした。

ポー村小学校でのボランティアは不安でいっぱいでした。今まで自分が日本で受けてきた教育を精一杯伝えました。授業後に子どもたちの笑顔を見てボランティアでできてよかったと自然に思えました。緊張していた私の心をほぐしてくれ、笑顔の力を肌身で感じる事ができました。笑顔は簡単に人々を幸せにできる世界共通語だと思いました。

篠崎まりな

私は今まで子どもたちに何かを教えるという経験がなかったので、ポー村小学校で授業をすることにに対して初めは不安を感じていました。授業は紙皿でブーメランを作るという内容でしたが、子どもたちが楽しそうに遊んでくれて本当に良かったなと思いました。BSSとポー村小学校で出会った子どもたちのキラキラした笑顔が印象的でしたが、両親が働いていない子、仕事を終えてから学校にきて疲れきっている子どもたちを見て、まだまだ多くの課題があることを実感しました。このボランティア活動を通して自分ができることは率先してやろうと改めて思いました。



教育とは、教え「育てる」こと



昨年9月BBSパン製造チーフのワッタ・ナが来日し、当初から支援を続けてくださっているエピソード(山本敬三代表)にて1ヶ月以上の製パンとマネージメント研修。帰国

後、BBSは新たな動きや課題を加えて稼働中である。日本で3年間教育を受けたBBS社長のピロンと、カンボジアのスタッフ

の間には当然「考え方=教育」の差があり、なかなか秩序の面でトップの思惑とおりの動きが出来ないことが多い。



現在、販売店舗ブース11箇所、レストランやカフェなど5店舗、長距離バス便に製品を大量におろしているが、基本クオリティを落とさないことはもとより新製品の開発にも要望が多い。また韓国系のパン屋からの職人引き抜きの脅威もあり、一層のチームワークが急務となっている。

ワッタ・ナの担う仕事の量を考慮し、マネージメントは二番手のセツに回すこととし、決められた秩序は、個人の事情で乱すことなく遂行することで運営会議はやっと落ち着いた。個人の事情ばかりを優先すれば、その個人を支えている組織が崩壊する危険性がある事を教えるのは簡単ではない。私たち日本人にとっては当たり前の理論だが、国が変われば「当たり前」も変わる。



今回、日本での未曾有の大災害による交通マヒで帰宅できない都心の人々が、駅の階段で誰に指示されることなく真ん中を

通行人のために空けて座る、節電影響下の暴動もなく、先を争ってモノを奪い合わず、黙ってバスや節電間引きの電車を、長蛇の列で待つ光景は、小さいときから秩序を守り「並んで待つ」ことを教えられ、育てられた一人ひとりの日本人の教



育の成果なのである。それをしないで我先に行動した結果が悪いほうに向くことを、一人ひとりが自然に認識している結果の秩序である。

教育とは教えを与えるだけでなく、個人個人を育てなければ成果は望めない。世界的な経済の落ち込み時期ではあるが、BBSのスタッフは少しずつ成長し、しっかりと



した技術を身につけ自活に向けて皆がんばっているのは事実であり、VIDES JAPANも教育ボランティアの真髄を再確認しながら共に歩む今日である。

中川摩夜



BSS -Bosco Sunday School-

クメール民族の誇りをもたせたい!!

世界遺産アンコールワットの街、シムリアップの中心部から車で約15分のところにある、BSSはノイさんの、プノンペン芸術大学時代の恩師キナル先生と仲間の考古学者の皆さんが発起人となり設立。その中心的な存在のソピアさんは、アンコール国立博物館にスーパーバイザーとして勤務しています。そんな彼女が企画した国立博物館での展示会「メコン川流域の文化を巡って」にBSSの子供たちを連れて行きたいのですが、との相談があり、是非とも実現してくださいとお伝えしたのです。



アンコール国立博物館を訪ねたBSSの子供たち

こうして2011年1月30日、BSSの子供たちがアンコール国立博物館を訪ね、彼らはソピアさんの説明を受けながら、メコン川流域の暮らしを学びました。既に2009年11月にアンコールワットの社会見学(バスツアー)を体験していますが、このようなビッグイベントの経験は、どれほど彼らの視野を広め、クメール民族としての誇りを高めることにつながるでしょうか。

村松みゆき



Bosco Bakery School/ Bosco Sunday School Address

Group 8,Po Village,Sangkat Siem Reap ,Siem Reap Province,Cambodia, Phone: (+855)12 202 132「日本語での対応可能です」

文化芸術省ホールからポー村へ —スタディーツアー

鈴木、松井姉妹、三科、廣岡、篠崎の6人は文化芸術省ホールでのコンサートの後、BSS,ポー村の小学校でボランティア授業を行った。



イタリアのスローフードと小さな教会を巡る旅

2001年から始まったVIDES異文化体験の旅は今年、鷺沼教会主任司祭・松尾神父様(サレジオ会)を団長に迎え、トスカーナの小さな教会を巡りながら参加者で共通の祈りの時を持ち、食文化や美術を楽しみながら現地の方々と生活を共有する素晴らしい旅に進化しました。ディズニーアニメの『アーサー王』のモデルとなった不思議な剣の教会(現在も教会の中で岩に刺さったまま保存されている)では南イタリア巡礼団との共同ミサ、キャンティ地方では夕方から緑の大地のなかで野外ミサ、震災被災者へ想いをはせました。今回は何処に行っても『この度の災害に心を痛めています。日本の為に祈っています』と多くのイタリア人に声をかけられ、心暖まる巡礼となりました。『他者の為に祈る』が自然に生活の中に生きるイタリア!以下は参加された方々の感想です。

薬師 昭子

神父様やシスターも同行して下さる贅沢な旅。ミラノに着くとアメリカからもう一名参加の方がいるというサプライズも!翌朝バスでの移動中、神父様が始められた祈りは「新しい朝を迎えさせてくださった神よ、今日一日私を照らし導いてください…」と、毎朝私が唱えている祈りだと気付き感動しました。

サンロッコの町で夕刻のミサに預かった後、信徒の方々から温かい歓迎を受け喜び合う機会に恵まれ、とても幸運でした。その後、トスカーナで5泊ほどお世話になるスピヌツァ夫妻がご自宅に我々を招いてくださり、次女次男の方が中心に腕をふるってくださったお料理で、神父様、添乗員の方やバス運転手さんも含め30人ほどで会食を。家族全員で役割分担し、ご両親は何も指示されていないのに何事もスムーズだったのには驚きを隠せませんでした。また、そこにはトスカーナでの短期滞在を終え帰国直前のVIDES会員の日本人青年も加わったのですが、滞在中に何かを見出されたような彼の輝く顔がとても印象的でした。スピヌツァ夫妻は、宿泊施設の経営以外に別荘をお持ちで、屋外の大きな石窯でピザ作りや試食もさせていただきました。

アジジでは「聖母の騎士会」の谷村神父様とのミサ、その後神父様の滞在されている修道院や大聖堂内を丁寧に案内いただき、その笑顔には感謝の気持ちでいっぱいです。

「美しい塔の町と呼ばれるサン・ジミニャーノを訪れた時には、イタリア巡礼団リーダーのシスターが、サレジオンシスター同士のシスター稲川率いる日本人巡礼団を見つけて盛り上がりました。

トスカーナ地方で最後の夜お別れ会では、スピヌツァ氏のお姉さんも家族に加わり、日本とイタリアの歌を交換。ダン

スもあり、そうこうする中にお互い前の人の両肩に手を置き、ムカデのように繋がって部屋から部屋へ。

また、松尾神父様のお招きでローマで勉強中のベトナム人の神父様が夕食を共にして下さり、日本語で会食を。普通の海外団体では味わえない数多くの人々との出会いと交わり、宗教や宗派にとらわれず、お互いに打ち解けての楽しい時間でした。



松下 優子

私は何回かイタリアに旅をしました。今までの旅行と違い、いろいろな経験をしました。特にアジジでのごミサ、教会巡り。谷村神父様がさわやかな笑顔で特別に案内して下さった修道院の回廊からの絶景に、思わず皆から「わーすごい!」「きれい!」の歓声があがりました。アジジの訪問で聖フランシスコに興味を持ち、今ではインターネットで調べたりもしています。

糸杉のある風景もバスから眺めたり村の散策の途中、丘から眺めたりと充分時間をとって心ゆくまで堪能できました。佳織さんご家族の暖かいおもてなしもなによりでした。お心のこもった数々のお料理、楽しかったピザ作り、お別れパーティなどなど、どれも忘れることがないでしょう。



西村 恭子

5月25日に松尾神父様、シスター稲川、VIDESの中川さんのもとに各地から13名の巡礼参加者、そして可愛いマスコットの存在の添乗員さんと共に成田空港出発。一路、イタリアへ。

私にとって4度目のイタリアの旅でしたが今までの観光やショッピングの旅とは違い初めての巡礼の旅でした。神父様とシスターに守られ治安が悪いと言われていたイタリアでも安心して過ごすことができました。また普通の旅では経験できないことをたくさん味あわせていただきました。

神父様のお祈りで一日が始まり、ごミサもほぼ毎日のようにいろいろなところであずかることが出来、大変ぜいたくな旅でした。

摩夜さんからはイタリア料理、チーズ、ワイン生活習慣その他諸々いろんなことを教えていただきました。「あなた方を一度このトスカーナの空気・自然の中にお連れしたかったのよ・・・」と力をこめておっしゃるシスターのお気持ちがよくわかる美しくどこまでもひろがっていく田園風景・銀色に輝くオリーブ畑、おいしいワインを生み出す葡萄畑、糸杉が案内してくれる道・素晴らしい景色でした。

イタリアの方と結婚なさっている星美学園の卒業生の方にはすっかりお世話になりご家族も総出でおもてなさいました。現地の方のご自宅や別荘にもお招きいただける経験をさせてもらい主婦としてもいろいろ学ばせていただきました。ご家族皆様の笑顔の素晴らしさと心を込めたおもてなしに一同すっかり感動してしまいました。本当に有難うございました。



世界遺産 チンクエテッレ



村田 昭子

VIDES祈りの会の友人からの誘いに直ぐ参加を決めました。信者でもなくVIDESとも関係のない私が即決出来たのは、彼女の人柄と日頃彼女からVIDESの事を聞いていて親近感を持っていたからです。

出発前日、関西からの参加者(私以外は旅慣れた方ばかり)は成田に宿泊。同室の方に荷物の詰め方から旅の注意点まで細かく教えて戴きました。旅行中も初対面の方々がとても親切で優しく接して下さり、居心地の良い家族的な雰囲気でした。

キリスト教史にご精通の松尾神父様のお話、超朗らかな稲川シスターの修道院に入られた経緯のお話、摩夜さんのイタリア料理解説、シスターと摩夜さんのデュエット、別荘での手作りピザコンテスト、美味しいワインとイタリア料理、夜道の蛍など、教会巡りや景色以外の楽しさも大いに満喫。とても恵まれた旅となりました。

私の趣味はバードウォッチング。なのに双眼鏡を持参せず、口惜しい思いをしましたが、トスカーナの宿の庭で囀っている美しい声の持ち主は、クロウタドリだと教えられました。もっと近くで観たいと思っていたところ、ローマの美術館の庭で見かけました。そと寄って行き、じっとしていると鳥のほうから近づいて来てくれました。「黄色い嘴と黄色いアイリング以外は黒色」と覚えて帰国。日本の野鳥図鑑に迷鳥としてしっかり載っていました。失敗もありました。出発前に気温の低い日があり、寒がりの私はセーターやブレザーなど寒さ対策は万全で出国。往復の機内ではレッグウォーマーが大いに役立ちました。ところが現地では早朝以外は暑くて・・・涼しくて動きやすい服の手持ちは僅か。旅の後半は、毎晩洗濯して同じような服ばかり着る事態に・・・これも楽しい思い出のひとつとなりました。この旅で、多くの素晴らしい方々とお出会い出来たのは、本当に幸せです。この機会に「天使作り」のお手伝いを決めました。



イタリアから被災者へ！ 暖かい気持ちをいただきました。

10年になるVIDES異文化の旅で知り合い、お世話になったイタリア・トスカーナの関係者の皆様から¥179,926(ユーロ7月13日換金)の暖かい義援金をいただきました。先の大震災後、SIENAのSpinuzza家を始め在住日本人からは、たくさんのご心配や数々の問い合わせをいただき、新聞や関連情報誌を急ぎ送付いたしました。このたび巡礼ツアー参加者をRomaで見送った後、特別災害プロジェクトイタリア現地賛同者と共に茶話会を開き、日本の現状をお話し、たくさんのお見舞い、励ましをいただきました。



VIDES JAPAN特別災害援助プロジェクト

3.11大震災で被害を受けられました皆様にお見舞い申し上げますと共に、
亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。
VIDES JAPANは2011年3月16日に特別災害援助プロジェクトを立ち上げ、
会員をはじめ、みなさまから多大な援助を戴きました。
ご支援に心から感謝申し上げ、活動内容のご報告をいたします。

美しい太平洋の波が打ち寄せる故郷「福島県浪江町請戸」の情景が、眼下に浮かんでまいります。海あり、山河あり、田畑あり、素晴らしい自然環境でした。その美しさが、3月11日にして、一瞬の内に、大地震と大津波によって崩壊し、流され、廃墟となり、また原発被害により、7Kmの避難区域となった故郷は、3月11日以来、映像でしか見れない状況に



なっていました。復興の目途もつかず、悲しい現実が続いています。

教育と開発を目指す国際ボランティアVIDES JAPANは、1998年、「福島県浪江町請戸」の地で「福島プロジェクト」を開始しました。これは、都会の子供たちが、豊かな自然環境の中で、地球上で生きる人間にとって大切なことを学ぶためのよい機会となっております。

特に、この「福島プロジェクト」体験で、全面的に協力してくださいました柴野家、泉田家、菅野家、そして参加者の子

供達やスタッフ達の宿泊所として別荘を提供してくれました稲川家の皆様には、その寛大な協力と、支援に対して、心からの感謝を表したいと思います。

そこでVIDES JAPANメンバー達は、被災者の家族の苦しみと痛みの心を共有するために、「福島県浪江町請戸」の皆様に対して、自分達で出来ることで、支援活動をしたいと考え、実践活動を開始しております。

4月17日VIDES春季定例会において、「災害特別援助プロジェクト」でお預りした義援金を被災者の家族に手渡しました。そして4月には土が恋しくなりました被災者の心を汲み、蓮田市にお住まいの方の畑を借用し、ジャガイモを植え、6月下旬から7月上旬に収穫いたしました。5月の連休には「VIDES山中サレジオ山荘」に被災者の家族を招待し、山荘のボランティア活動や温泉、河口湖、忍野八海巡りなどを

行い、気晴らしの日々を過ごすことが出来ました。また山中在住の方々からは、被災者家族を慰めるためのお品を頂き、心から感謝いたします。沢山の方々の具体的支援活動から、被災者家族は励ましと慰めを頂き、このご恩は決して忘れませんと述べております。このような被災者支援活動は「VIDES JAPAN災害援助プロジェ



東日本大震災の地に立って



6月9日、東京駅23時発のバスは宮城県へと向かった。車中泊から目を覚ますと、何とそこは最大級の被害が出た、南三陸町！見渡す限りに広がる瓦礫の迫力と、その中に立つ自分の小ささを感じた。瓦礫の中には折れた電柱、道路標識、新聞紙を丸めたように潰された車などがあり、とても水の力とは思えない恐ろしさを知った。そして被災者は、これより酷い状態の中で行方不明の家族を捜し歩いたのだろうか・・・

それから南三陸町災害ボランティアセンターに行き、一日目の作業内容は瓦礫撤去と決まった。午前は小学校の通学路、午後は大型側溝の中に入った作業だった。泥で重さを増した鉄くず、布団、家具、電子レンジなどをシャベルで掘り上げ、一輪車に載せて指定場所まで運ぶ作業を何度も繰り返した。ひたすら重かった。午後からは気温が上がり、とても暑かった。

この作業には地元の被災された方々も加わっていた。休憩時間には津波の日の生々しい体験談を聞かせてくださり、「この南三陸町は美しい町だったんです。復興したら、是

非遊びに来て下さい」と微笑みを浮かべながら語る姿に、深い感銘を受けた。

二日目は写真洗浄。自衛隊が運んできた写真の泥を筆で洗い落とし、乾かす作業だった。それは数日後に展示会を催し、被災者に写真を返すためである。写真の中には結婚式、出産、卒業式、還暦などの大きな祝い事で撮影されたものもあった。泥を落とすと出てくるのは、必ず笑顔だった。家族が一緒だった。仲間が一緒だった。津波さえ来なければよかったのに・・・なぜこんな酷い目に遭わされるのだろうか・・・早く復興して被災者に笑顔が戻りますようにと、祈らずにはいられなかった。

被災された方々は、これ以上の苦しみを今もお味わっているのかと思うと、涙があふれてくる。自分の無力さに押し潰されそうになる。暗中模索しながらも、東日本大震災と長期にわたって関わっていくために、この体験を忘れまいと心に決めた。マザー・テレサの言葉に、「愛の反対は無関心です」とあるように。

平沢 育子(長野県在住)

クト」にご協力下さいました支援金等から、活動を実践しております。皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

6月下旬、福島県、宮城県、岩手県の被災地を訪問致しました。福島県二本松市浪江町仮役場を訪問し、「VIDES春季定例会」での「応援しています。福島県浪江町の皆さん＝VIDES JAPAN」の写真と義援金を、浪江町役場佐藤尚弘補佐と青田洋平主査に渡してきました。また、「福島プロジェクト」活動の「ジャガイモ畑」を提供して下さいました青田洋平さんにも、義援金をお渡ししてきました。彼らはVIDES JAPANの支援に対して、とても喜んでおられました。

「福島県浪江町」の人々の避難状況は原発により、生活形態が他県と違い、とても厳しく、難しい現状であるとのこと。特に「福島県浪江町」の約2万人の町民達は原発被害により、南は沖縄県、北は北海道に避難し、町民一致の力が分散していることが大きな課題になっているとのことでした。さらに「浪江町役場」が福島県二本松市に仮住まいをしていることも、町民達の心もとない心境でもあるようです。また、原発の影響により、転校を余儀なくされた中学生達が、自分の精神的居場所が定まらず、とても荒れた生活をしているとのことでした。

岩手県大船渡教会と釜石教会を訪問した折、VIDES JAPAN支援物資を持参し、被災者の皆様にお渡ししたところ、大変喜ばれました。



現在、こちらの2県は「被災者の心のケア」ボランティアが必要とのことでした。

東日本大震災の復興は長い年月が必要と思われます。特に「原発被害」は日本国土を恐怖に至らす大きな惨事です。この大惨事に巻き込まれている「福島県民」並びに「風評被害」で苦しんでいる多くの方々の焦り、怒り、戸惑い、虚しさ、絶望感に対して、出来ることを出来るときに、心を込めて支援していきたいと思えます。これからもご協力をよろしくお願い申し上げます。

VIDES JAPAN 顧問 Sr. 稲川孝子

お預かりした支援物資は…

震災直後に、VIDES福島プロジェクトで大変お世話になりました浪江の皆様が、津波と原発とで多大な被害に遭われ、東京近郊に着のみ着のまままで避難されているとの一報が入りました。フリマ担当者で、倉庫に保管しております品物の中から衣類・食器など初期支援をさせて頂きました。ただ、まだまだ足りない状況に、事務局より支援物資受付開始の情報が発信され、たくさんの方からお送り頂きました物資は瞬く間に修道院の廊下いっぱいになりました。



このような未曾有の事態に直面し、何かの形で支援をされたいとお考えの方が多かったのではないのでしょうか。日常の衣

類は勿論のこと、防寒コート、石鹸・タオル・歯ブラシ等の日用品、下着、台所用品、食料品、医薬品…と、本当に多岐に渡り、支援を受けられる方が、何を必要とされているのかを色々考えられてお送り下さったお心遣いを感じました。皆様の暖かいお心を何度かに渡って避難されている皆様にお届けすることが出来ました。

その後、福島倉庫を拠点に避難所等の支援をされている民間団体とカトリック仙台司教区へも物資を送らせて頂きました。

これからも細く長くお手伝いさせて頂ければと思っております。今回お届けしきれませんでした冬物が若干ございますが、今秋フリマにて販売し、支援金に充当させて頂く予定でおります。

最後に、支援物資をお送り頂きました皆様に心より御礼申し上げます。そして被害に遭われました皆様が一日も早く、平和で心穏やかな日常生活を取り戻されます様にお祈りいたしております。

物資援助担当 染谷 信子

十字の祈り！

この度は、支援物資を送ってくださり、まことにありがとうございます。
被災地の状況は、日々刻々と変化していますが人々が自分の生活を取り戻すためには何年もの時間が必要になると思われます。みなさまが送ってくださった物資はその長い道程の一歩であり、尊いものです。どうぞ、今後とも被災者の方々のために祈りください。
心からの感謝のうちに。

有難うございました。

2011年6月20日
仙台教区サポートセンター
スタッフ一同

980-0014
仙台市青葉区本町1-2-12
仙台教区サポートセンター

仙台教区サポートセンターよりの感謝状



会計から(2011年8月30日現在)

- 災害援助物資協力者数25名
- 災害援助募金送金者数 154名 総額 ￥4,481,926
(内訳) イタリアより ￥179,926
個人・各団体より ￥4,302,000

- 4月17日 定例会にて被災者家族へ義援金として ￥2,000,000
- 6月30日 浪江町役場へ支援金として ￥100,000
- 7月1日 被災者支援活動金として ￥2,381,926

引き続き 被災者支援活動の為に使わせて頂きます。

受領書

VIDES JAPAN 代表 稲川孝子 様

東日本大震災及び原子力災害による義援金として

¥ 100,000 円

上記の金額を領収いたしました。

当領書は、法人税等の控除の対象となります。
詳細は、税理士事務所等にお問い合わせください。

平成23年6月30日

住 所 浪江町大字巖槻字六反田7-2

氏 名 浪江町長 馬場 有

福島県浪江町々長より受理証と感謝のお便り

VIDES 2011年度 ビーデス活動参加者 募集!

海外ボランティア カンボジア



派遣地 カンボジア・シェムリアップBBS
 派遣期間 2012年3月12日(月)～19日(月)8日間
 派遣内容 カンボジアの子どもたちと青年との文化交流
 (世界遺産アンコールワット観光含む)
 派遣人員 6～8名
 参加費用 約¥220,000(旅費・宿泊費・食費(2食)・
 研修費含む)
 準備研修期間 11～2月中 毎月研修日を設ける
 第1回研修 2011年11月27日(日)
 参加条件 ボランティア意識・語学力(英語中学生程度)
 協調性・健康

星美祭 ボランティア



2011年10月8日(土)～9日(日)に開催される「星美祭」のボランティアスタッフを募集中です。ボランティア内容は、フリーマーケットの準備・販売、うどん・水餃子・焼き鳥などの調理・販売。(調理は前日10/7(金)に行います)

X'mas会 参加者



2011年のクリスマスは、「VIDES クリスマス会」で過ごしましょう!
 日時:2011年12月11日(日) 11:00～15:00
 会場:本部修道院1F マインサロン 会費:500円



VIDES世界大会 2012年10月下旬～11月上旬 イタリアで開催予定!!

◆お申し込みは◆

氏名・年齢・職業・住所・電話番号(FAX)・希望ボランティアを明記し、下記の VIDES JAPAN 事務局へ FAX または郵送してください。

※この他、異文化体験の旅、カンボジアパン工房学校(BBS)訪問ツアーなどのお問い合わせもお気軽にどうぞ。

VIDES TOKYO 14 Activities <VIDES 東京14活動>

- 海外ボランティア<カンボジア・フィリピン> ●学資援助 ●レストランテVIDES ●フレンドシップ ●Mac Love
- フリーマーケット ●海外物資援助 ●VIDESカルチャー ●ランチショップ ●VIDES マイン
- VIDES アカデミー ●VIDES 祈りの会 ●VIDES 山中サレジオ山荘 ●VIDES shop

2011 VIDES年間予定表(後期)

	10月	11月	12月	2012年1月	2月	3月
料理教室	22(土)	26(土)	10(土)	14(土)	18(土)	10(土)・31(土)
レストランテVIDES		8(火)	13(火)			
祈りの会	11(火)	8(火)	13(火)	17(火)	7(火)	6(火)
VIDES SHOP	5(水)・6(木)・7(金) 13(木)・14(金) 26(水)・27(木)・28(金)	2(木)・4(金) 16(水)・17(木)・18(金) 24(水)・25(木)・26(金)	1(木)・2(金)	11(水)・12(木)・13(金) 18(水)・19(木)・20(金) 25(水)・26(木)・27(金)	3(木)・8(水)・9(木) 15(水)・16(木)・17(金) 22(水)・23(木)・24(金)	7(水)・8(木)・9(金) 14(水)・15(木)・16(金) 28(水)・29(木)・30(金)
ランチショップ	6(木)・20(木)・27(木)	17(木)・24(木)	8(木)	19(木)・26(木)	2(木)・9(木)	1(木)
典礼CORO	2(水)	9(水)	14(水)	18(水)	8(水)	7(水)
フレンドシップ		3(木)	11(日)	15(日)	11(土)	25(日)
AZ	4(火)・5(水)	17(火)・18(水)		17(火)・18(水)	14(火)・15(水)	
	星美祭参加 8(土)～9(日)		11(日)クリスマス会			スタディーツアー